

## 別紙 4

報告番 -	※ -	第
----------	--------	---

## 主 論 文 の 要 旨

論文題目  
氏 名

板書分析による日本の教室における文化的スクリプトの可視化研究

タンシャーリー

## 論 文 内 容 の 要 旨

最近の教育実践研究が教室実践の根気強さについて懸念を表明した(Dorn, 2018; Goldenberg & Gallimore, 1991; Tocci, Ryan, & Pigott, 2019)。Tyack and Cuba が主張したように、“教育の中心、すなわち、教室実践に改善をもたらすことは、改革で最も難しいものである”(1997, p. 134)。ただし、教育者や研究者の怠慢は、教室実践の根気強さに関係がない。それは、「我々が対象していることは、単に心理とペダゴジーの問題だけではなく、文化的な問題に直面している」(Gallimore, 1996, p. 230)。教育現場に真の変化を達成する最善策の一つは、そのコミュニティの価値観や信念を考慮することである(Fullan, 2015)。困難な点は、ある価値観や信念は、教室のバックグラウンドで機能することにより、特定することが簡単でない。困難点があるといっても、目に見えない教室文化を解明しようとする研究者の意欲が削がれることはない。例えば、Stigler と Hiebert (1999) は、この現象を、文化的スクリプト(cultural script)と定義している。彼らによると、文化的スクリプトは、学校組織の一員としての教師や生徒の行動や思考を暗黙のうちに制約し、学習や人間形成に大きな影響を及ぼしている。また、この見解から教室を検討することは、よりよい授業を創るために、真剣に文化的スクリプトの役割とインパクトを考えなければいけないことを意味する。このような意味での教室における文化的スクリプトは未知の部分が多いという認識も重要だと考えられる。

そこで、本研究では、Stigler と Hiebert (1999)の文化的スクリプトの概念を駆使し、板書に着目し、日本の教室の文化的スクリプトの解明を目指すことである。本研究が依拠する理論的枠組みは Engeström (1987)によって提唱された文化歴史的活動理論(Cultural Historical Activity Theory, CHAT)である。文化的スクリプトの概念、

CHAT と板書の 3 つの要素を組み合わせ、教授および授業の独特なシステムを形成する潜在的な要因が明らかにされることが期待出来る。本研究は、授業において発言から板書が構成される過程に着目し、構成過程に内在する発言と板書の関連構造を可視化させ、教室・授業の背後に包含されている多様な文化的スクリプトを明らかにすることを目的とする。文化的スクリプトを明らかにするために、質的な研究方法を使うことになった。データ収集完成するまでに 3 年の時間が要し、3 つの小学校、12 コマの授業、12 人の教師と 380 人の生徒を対象にした。全て観察した授業が、映像記録、画像記録、音声記録と観察ノートのデータを得た。そして、3 つの研究課題を設定した：1) 教師の板書内容を選定する基準の把握 2) 板書分析方法の開発 3) 教科別の板書スタイル・多様性の分析。まず、第一段階の分析は、子どもの発言をもとに板書が構成される過程に着目し、授業内で生起する事実をもとに教師の板書内容を選定する基準を明らかにすることを目的とする。そして、第二段階の分析は、板書分析として 2 つの分析方法を開発した。すなわち、縦書き分析方法と板書コレオグラフィ・板書トランジション分析方法である。この二つの板書分析方法より、生徒の思考の流れと授業の性質が見られると考えられる。次に、第 3 段階では、教科ごとの板書に考察し、板書スタイルの多様性と教科の特性との関連を明らかにすることを目的とする。

以上の 3 つの研究課題の結果と結びつけ、日本の教室の文化的スクリプトの解明を目指すことである。板書分析の結果と授業記録にある発言の比較を通して、三つの教室の文化的スクリプトの傾向が見られた。第一は、個別性と協同性の共存というスクリプトである。第二の文化的スクリプトは、正解至上主義や競争主義への抵抗である。最後に、第三の文化的スクリプトは、公開性と構造化の絡み合いなのである。分析結果より、文化的スクリプトが板書の機能を実現させながら日本の教室における板書に反映されることが分かった。文化的スクリプトが特定されることで、「教えることは、なぜこの様な現状になるか、なぜ改革に抵抗するか」(Stigler & Hiebert, 1999, p. 144) への理解を深めることができる。その結果として、教師の学び続ける姿勢を支援できると考えられる。また、文化的スクリプトの変更が時間のかかる作業であるが、不可能なことではないということを識しておくことも重要である。文化的スクリプトの比較を通して、自身が有するスクリプトの認知度を向上させることができ、異なるスクリプトから学ぶこともできると思われる。

引用文献:

Dorn, S. (2018). How the “industrial era schools” myth is a barrier to helping schools today. Retrieved December 28, 2019, from <https://shermamdorn.com/wordpress/?p=8558>

- Fullan, M. (2015). *The New Meaning of Educational Change, Fifth Edition*. Teachers College Press. Retrieved from <https://books.google.ch/books?id=YxGTCwAAQBAJ>
- Gallimore, R. (1996). Research on classroom ecologies : implications for inclusion of children with learning disabilities. In B. K. Speece, D. L. ; Keogh (Ed.) (pp. 229–250). Lawrence Erlbaum Associates.
- Goldenberg, C., & Gallimore, R. (1991). Local Knowledge, Research Knowledge, and Educational Change: A Case Study of Early Spanish Reading Improvement. *Educational Researcher*, 20(8), 2–14. <https://doi.org/10.3102/0013189X020008002>
- Stigler, J., & Hiebert, J. (1999). *The teaching gap : best ideas from the world's teachers for improving education in the classroom*. New York : Free Press, [1999] ©1999. Retrieved from <https://search.library.wisc.edu/catalog/999878366002121>
- Tocci, C., Ryan, A. M., & Pigott, T. D. (2019). Changing Teaching Practice in P–20 Educational Settings: Introduction to the Volume. *Review of Research in Education*, 43(1), vii–xiii. <https://doi.org/10.3102/0091732X19839068>
- Tyack, D., & Cuban, L. (1997). *Tinkering towards utopia: A century of public school reform* (Revised ed). Cambridge, MA: Harvard University Press.

